せたがや未来の平和館を活用しよう！！

スタート

あなたにおすすめの使い方をチャートで選ぼう！

展示を見て学んだり考えたりするのが好き！

はい → **自分の住む地域のことをもっと知りたい**

はい → 東京都との共催の「東京空襲資料展」を見に来てください！都所蔵の貴重な資料や写真から、東京の空襲の実態や戦中・戦後の労苦を知ろう。

東京空襲資料展
2/27～3/10

いいえ → **今の世界の紛争や戦争が気になる**

はい → 過去の戦争をテーマとした展示から、今の平和に向けてのヒントをを探してみませんか。また戦争や紛争がなぜ起きてしまうのか、どうしたら防ぐことができるのか考えてみませんか。

常設展・ライブラリー

いいえ → 静かなスペースのライブラリーで、考えたり、調べたりしませんか。平和をテーマに様々な書籍が約3000点あります。DVDは閲覧、貸出もしています。上映会も不定期で開催しています。

ライブラリー
上映会

いいえ → **おしゃべりしたり動いたりするのが好き！**

はい → ワークショップやボードゲーム会、ガイドツアーなどで、対話しませんか。

ワークショップ
クイズラリー
ボードゲーム会
ガイドツアー

令和5年度開催の東京芸術劇場開場

東京空襲資料展　開催します

令和7年2月27日（木）～3月10日（月）

せたがや未来の平和館　多目的室

太平洋戦争中、東京は、昭和20年3月10日の空襲で10万人ともいわれる尊い生命が失われました。その後も20年8月15日の終戦までに100回を超える空襲が続き、東京は焦土と化しました。東京都は、平成2年より3月10日を「東京都平和の日」と定め記念行事を行ってきました。平和の日当日は、都庁で記念式典を実施します。14時から東京都ホームページにて生中継をご覧いただけます。資料展では、戦中・戦後の生活や労苦を物語る資料に加え、当時の記憶を語る証言映像を上映します。

令和7（2025）年は戦後80年となります

世田谷区は平和都市宣言から40年

せたがや未来の平和館は

開館10年目を迎えます

10周年記念行事を準備中！

せたがや未来の平和館 だより 34号

（世田谷区立平和資料館だより）
令和7年2月発行／生活文化政策部 人権・男女共同参画課　平和資料館

◇東京空襲資料展　令和7年2月27（木）～3月10日（月）

◇古地図でせたがやの戦跡を探ろう！
◇「戦争」がなければ「平和」でしょうか？　◇展示品紹介「奥沢国民学校の疎開絵日記」
◇せたがや未来の平和館を活用しよう！！

平和への想いを様々な人と・・・

□ **開館時間**　午前9時 ～ 午後5時（入館は午後4時45分まで）
□ **入 館 料**　無 料
□ **休 館 日**　毎週火曜日（火曜日が祝日の場合は翌水曜日）年末年始（12/29~1/3）
□ **所 在 地**　〒154−0001　東京都世田谷区池尻1−5−27 世田谷公園内（野球場となり）
☎ 03−3414−1530　　FAX 03−3414−1532

せたがや未来の平和館HP

せたがやの戦跡を探ろう！

１万分の１地形図「東京近傍十九号　世田谷」
昭和５年１０月発行

地図提供：世田谷区立郷土資料館

戦争体験者のインタビュー映像をYouTubeに公開しました

世田谷区公式YouTubeチャンネルで、ぜひご覧ください。

「戦争」がなければ「平和」でしょうか？　ー「平和学」をご存じですか？ー

「平和」と言ったら、何をイメージされるでしょうか。原爆や沖縄戦、空襲などアジア・太平洋戦争のことを思い出す人もたくさんいるかもしれません。しかし、戦争を避けられれば、本当に世の中は「平和」になるでしょうか。

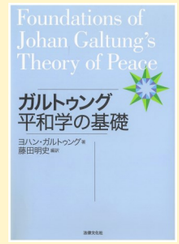
「平和学の父」とも呼ばれるヨハン・ガルトゥングは平和を「暴力の不在である」とし、「暴力」の定義・形態を考えることによって、平和に対する私たちの思考の視野を広げてくれました。

暴力の定義は「人間が現実に、肉体的・精神的に達成したものが、彼らの潜在的な実現可能性を下回るような、そうした影響を彼らが蒙ったとき、そこには暴力が存在する」（2019：p8）とされています。ここでまず重要なのは、「比較」、つまり「潜在的な実現可能性が下回る」ということです。例えば、どんな治療を受けても治らない病気で亡くなったら、そこに暴力が存在するとは言えません。しかし今の技術で薬を飲めば生きていける病気なのに、薬が届かない・それを買うお金がないといった理由で一部の人だけが亡くなったら、そこに「本来の可能性が奪われてしまう」ので、暴力が存在することになります。つまり、時代と条件によって変わるものです。

人の身体にダメージを与えたり、命に必要なものを奪ったりすることなど、今まで多くの人がイメージする「暴力」は、「個人的暴力（直接的暴力）」に該当します。また、制度や社会の仕組みに内在する権力分配の不平等により、一部の人だけから可能性を奪われる「構造的暴力」もあります。二つの暴力は影響し合うので、一つだけを優先的に解決する、または一つをもうひとつで解決しようとするのではなく、両方を解決できるような方策を考えていく必要があるのです。

また「暴力の直接的または構造的形態を正当化するために利用される文化の諸側面」（2019：p.49）と定義された「文化的暴力」もあります。例えば、ユダヤ人に黄色いバッジをつけること、標準語を使わない人に「方言札」を掛けさせることはその場で身体にダメージを与えたわけではないが、差別的なシンボルとしてその後の暴力に繋がるわけです。

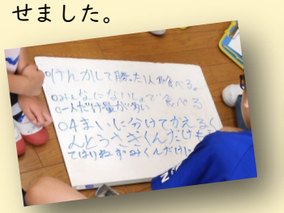
ガルトゥングは、直接的な暴力だけを平和の問題にするものでもなく、人間の不幸な状況がすべて平和ではないと無限に定義を広げるものでもありません。この理論化は、複雑かつ困難であっても、私たちに暴力の様々な形を認識させ、何かしらの手段で平和に近づけるかもしれないと、重要なヒントを与えてくれました。



［参考資料］ヨハン・ガルトゥング著、藤田明史編訳『ガルトゥング平和学の基礎』法律文化社　Johan Galtung "Violence, Peace, and Peace Research" Journal of Peace Research, Vol.6, No.3(1969), pp.167-191

平和を考える出前授業を実施しました！

区内小学校4年生を対象に、平和とは何か、「暴力には見えない形もあるのか」について授業で話し合いました。最終的には、ある課題に対して「平和じゃない」解決方法を考えてみてもらいました。子どもたちは積極的に参加し、大人も考えたことのない意見を言ったりして、平和へのイメージを膨らませました。



［展示品紹介］奥沢国民学校の疎開絵日記

1944年8月、空襲が激しくなるにつれ、都市部の子どもたちは「学童疎開」で地方に行かされました。世田谷区内の小学校（当時国民学校）の子どもたちも、長野県と新潟県に疎開することになり、親から離れた集団生活が一年以上続いていました。

食糧が足りなかったり、寂しくて駅まで逃げて東京に帰ろうとしたり、疎開した子どもたちの証言や記録はたくさん残っています。その中でも全体像がわかる資料として貴重なのは「奥沢小学校の絵日記」です。絵日記には、奥沢小学校の疎開先である長野県波田村（現松本市）での疎開生活や町の風景が描かれました。特に先生の指導の下で子どもたちが分担して描いた一日の生活は、集団生活の様子を生き生きと伝えてくれました。絵日記の原本を当時6年生の子の親が持っており、その後奥沢小学校に寄贈されました。

資料館では現在絵日記のコピーの他、パネルとしてまとめられたものが常設展に展示されています。機会があればぜひ館内「戦争と子どもたち」コーナーをご覧になってください。